

渡邊泰三作《えんぶり》の保存修復

長峯朱里 NAGAMINE. akari / 文化財保存修復研究センター嘱託研究員



図1. 修復前



図2. 修復後

第一章 作品概要

- 作者：渡邊泰三
- 作品名：えんぶり
- 制作年：1976年（昭和51年）
- 寸法：910mm×1166mm 50号 F型
- 材質技法：油彩／画布
- 署名：画面左下に赤絵具でTaizowatanabe
- 付属品：額
- 額寸法：970mm×1230mm×60mm

第二章 損傷状態

仮額、銀縁。絵具が乾ききる前に装着したためか、仮額の内側一部に絵具が付着していた。ガラス・アクリルは無し。仮額を直接作品に釘で固定していたため、作品の一部に変形が見られる。

地塗り層は白色で、布目が見える中程度の地塗りが施されている。キャンバスの折り返し部分にも地塗りが施されているため、既定のキャンバスであると伺える。作品を固定している釘の跡が地

塗り層に残っており、張りなおした形跡が見られた。

本作品の絵具層は非常に厚い。筆触は大きく、筆やペインティングナイフを使用し、幾多にも重ね、盛り上げるように描かれている。茶褐色や赤を混ぜた灰色が最下層に塗られ、その上に明るい灰色や白色を用いて立ち上げるように描かれている。基本的に白色を混ぜた不透明色で描かれているが、人物の法被などには透明色が重ねられている。損傷として、ガラスのない仮額にて長年飾られていたため、全体的に埃が付着している。加えて、絵具層の浮き上がりや剥落が多数散見された。亀裂の原因は、絵具が分厚く、キャンバスの柔軟性が高いため、キャンバスの動きに合わず生じたものと推察される。生じた亀裂は絵具層のみで、層間剥離が多く、地塗り層自体に亀裂は見られなかった。また、絵具層の重みから支持体がたわみ、中棧に当たって横方向の亀裂が生じている。上部に見られる背景部分のちりめん皴は、地塗り層か

ら紺、赤味の灰色、エメラルドグリーンと厚く重ねてゆき、最後に薄く油で溶いた緑や茶褐色、灰色を重ねていたため、下層の絵具が乾く前に上層の絵具が乾いたことで生じたものと考えられる。

ワニス層は溶剤テストの結果から、塗布されていないと判断した。しかし、全体的に艶がかっている部分が多く見られるため、描画時にリンシードオイルなど油を加えて描いたと考えられる。

第三章 処置方針

作品の状態などの観察から、以下の処置方針を立てた。

- ・ 作品の絵具層の浮き上がりが著しく、剥落の危険性が高い。これらを膠水溶液で接着を行い、絵具層を安定させる。
- ・ 本作品は長らく額縁にアクリルが無い状態で展示されていた。これまでに堆積された埃を除去し、作品の鑑賞性を向上させる。
- ・ 仮額から本作品を外し、新調した額に入れ、作品の保管環境を改善する。額の画面側にはアクリル板、裏面には裏板を入れることで埃の侵入・付着や湿度の影響を受けにくくする。
- ・ 本作品の展示方法は、壁にL字金具で固定し、上部はテグスで吊り下げ、浮かせている状態だった。そのため、より安全性の高い新規吊り金具と吊り紐に変える。
- ・ 修復時に使用するものはすべて可逆性のあるものを使用する。

第四章 修復処置

処置方針を踏まえ、以下の処置を行った。

1. 修復前の写真撮影、状態調査を行った。
2. 額から作品を取りはずした。
3. 亀裂や剥落周囲の絵具層の浮き上がり箇所を膠水を用いて接着強化した(図3)。
4. 画面の埃汚れを精製水と0.2%アンモニア水で洗浄した。
5. 木枠は精製水で洗浄した。木枠の下部分に付着した接着剤痕はミネラルスピリットで除去と、エタノール水溶液で拭き、木枠を消毒した(図4)。
6. 裏面の埃汚れを筆、ミュージアムクリーナー、天然ゴムスポンジで除去した。
7. 亀裂と剥落部に、石膏と膠の充填材を筆で塗布した。乾燥後、メスなどで削り、周囲に合わせて整形した。

8. 充填箇所を、周囲の色に合わせて、水彩絵具とアクリル樹脂絵具で補彩した(図3)。

9. 新規額縁にシーリングテープを貼り、入子部分にはフェルトを張り付け、額当たりを緩和させた。

10. 作品裏面と裏板の間に湿気の予防と酸の緩衝材としてピュアボードなどを挟んだ。

11. 作者名が掘られた画題に付着していた接着剤をミネラルスピリットを用いて除去した(図4)。

12. 画題にニスを新たに噴霧し、光沢を整えた。

13. 修復後の写真撮影を行った。

第五章 まとめ

本作の処置は現在の劣化の進行を防ぎ、鑑賞性を向上させることを目的として行った。作品の展示箇所、展示方法から、より作品の保管性と安全性を向上させるため、新規額縁を提案した。展示方法は従来のものから、ピクチャーレールを設置し、新規吊り金具を使用した。処置の終えた本作が長く保存・展示されることを願う。



図3 亀裂の接着強化



図4 接着剤痕の除去